

## 安全・危機管理ワーキンググループ 議事概要

平成27年3月30日

文責 坂谷定生

開催日時：平成27年2月27日（金）18：30～20：00

開催場所：株式会社トーヨーアサノ6F会議室

出席者：坂谷GR、北川理事、守本孝造、鈴木一行 計4名

### <議事概要>

坂谷GR：本日資料として、グアムレース事故に関するもの、ディンギー系の危機管理に関するもの、2001年に安全委員会、広報委員会によって策定されたJSAF緊急対策マニュアルの三種類を用意しました。事前の対策としてはこれまでやってきた部分で一段落と考えますので、今後WGとしては事故が発生した場合の対応や処理方法について、何らかのマニュアル的なものが出来ればと考えている。一方でこれに対応するための窓口組織の設置も考える必要もあるが、そのことがJSAFにとってはかなり重荷になることも確かなので、今回からはこの方向性の可否も含め検討するのがWGの活動の方向と考えているのでよろしくお願いします。

ところで、国体で重大な事故が発生した場合は、現状で誰がどのような対応をするのですか。

川 北：実行委員会がどこまで関与するかだが、現状は地方自治体とJSAFが対等で大会全体をコントロールする形なので、訴訟も含めJSAFも関わることになると思う。

坂谷GR：少なくともJSAF主催の大会については、窓口を作ることは意味がありますね。

川 北：そのように思います。

坂谷GR：先般の危機管理に関する提言は皆さんどのように受け止めてるんですかね。

川 北：ほとんど浸透していないように思う。情報を広げるのであればウェブに貼るのが効果的で、それも複数の委員会等に貼って見る機会を多くするのがいいと思う。

坂谷GR：外洋の加盟団体には先般の団体長会議でお知らせしましたが、更にいろんなHPを利用して周知の努力をしたい。

事故対応の中で、例えば海上保安部等に事故対策のためとして、次回からの大会に対する負荷条件を飲んでしまうと、それがJSAFのレース全体のスタンダードになってしまうという事態を招くことも考えられるので、これを防ぐために事故後の対応

について何らかの指針があればと考えており、資料を参考にして時系列で模式図的なものを作れないかと考えている。

川 北：レース委員会も入れて今あるマニュアルに肉付けすればと考える。次回までに作業をする必要がある。

鈴 木：纏め方としてはフローチャートがいいと思う。

川 北：マニュアルを作った後、広く展開するためには関係委員会との共同作業という形にするのが望ましいと考える。

※この後纏め方の方法等について話し合う。

坂谷GR：前回JSAFのHPにはあまり良い情報がないという意見があったが。

守 本：再度確認したところ、いろんな情報が出ているが、見難いというのが実感だ。

坂谷GR：（守本氏に）そういう部分も含めて安全委員会や広報委員会に対して、こうしてほしいというような要望書を作ってもらいたい。

※次回までに検討のたたき台となるマニュアルのある程度のものを用意するよう努力することとし解散した。

次回は4月21日（火）18：30より、トーヨーアサノ6F会議室で開催することとした。

以上

※ 準備資料添付